

## 大野市脱炭素推進会議 第1回脱炭素ワークショップ 議事メモ

日時 令和6年7月29日(月)午後7時～午後9時10分

場所 結とびあ 201・202号室

### ○出席者

委員：9名(全員出席)

事務局：5名(環境・水循環課職員)

### 1 挨拶

環境・水循環課長 挨拶

- ・ 脱炭素推進会議委員の皆さまにおかれては、全体会議に加えて、ワークショップにもご参加いただけることに重ねてお礼申し上げます。
- ・ 福井大学カーボンニュートラル推進本部の先生方におかれては、ご参加を依頼したところ快くお引き受けいただき感謝申し上げます。研究者としての視点から、地域の脱炭素化については是非お知恵をお借りしたいと考えている。
- ・ さて、本ワークショップは、今回初めて開催する。昨年度は2回の脱炭素推進会議を通して、さまざまな立場の委員から多数のご意見をいただいたが、市として抽象的な意見を具体策につなげていくことに難しさを感じている。
- ・ そこで、ある程度人数を絞り、共通のテーマのもと議論を重ねることで、皆さんの共感を得て、実行性のある具体策が生まれるのではないかと考え、今回のワークショップの開催に至った。
- ・ 昨年3月に策定した「大野市脱炭素ビジョン」は、国よりも早い2035年でのカーボンニュートラル達成を目指し、市民や事業者、行政が取り組むべきさまざまなプロジェクトを掲げている。
- ・ 目標達成のためには、行政のみならず、市民や事業者など、多様な主体がそれぞれの立場からプロジェクトに取り組むことや、互いが協働・連携しながら取り組むことが重要である。その上で、本ワークショップでは、皆さんが「我が事」として捉えることができる具体策を作り上げていきたい。
- ・ 全3回の会議となるが、所属団体としての意見、一市民としての意見、あるいは専門的見地からの意見など、忌憚のない意見をお願いしたい。

### 2 構成員の紹介

自己紹介

### 3 説明事項

- (1) ワークショップの進め方について  
資料に基づき事務局から説明
- (2) 市内の脱炭素の取組みについて  
資料に基づき事務局から説明

### 4 ワークショップ

2班に分かれて、「自然（森林、水、雪、星空、田など）を生かした脱炭素の取組み」についてアイデア出しを行った。終盤にそれぞれの班のアイデアを発表し、共有した。

※委員からの意見は別添「ワークショップアイデア等一覧」参照

### 5 閉会

座長より閉会

>>終了

# 第1回脱炭素ワークショップ アイデア等一覧

テーマ		「自然」(森林、水、雪、星空、田など)を生かした取組みを進めるためには、「誰が」「何(自然)を使ってどうする」と良いか。		
No.	誰が	何の自然を	どうするか	班
1	市民		市民が自然を散策する(ウォーキングイベント、車から徒歩へ)	A
2	市民	雪	「市民」が住宅の屋外に「雪」を貯めて冷蔵庫として使う	A
3	市民	森林	市民が間伐材を使ったまきストーブを導入する	A
4	市民	田、森林	市民が、学生の農業体験及び収穫を授業に取り組む	A
5	市民		市民がごみ減量化のため生ゴミコンポストを行う	A
6	市民	太陽	マンションの住民が資金を出しあって太陽光発電設備を設置する	A
7	市民	雪	市民が、住宅に簡易的な雪室を作る	A
8	市民	太陽	市民が、太陽光パネルと蓄電池の導入する	A
9	市民	森林	市民の植樹にエコポイントをつけて緑(吸収源)を増やす。(ふくECO)	A
10	市民	生物	コンポストを導入する(キエーロ)	A
11	市民	田	農作物の地産地消を行う(輸送時のCO2削減)	A
12	市民	水	地下水をくみ上げる途中でタービンを回し発電する	A
13	市民	水	家庭用(水路)を庭に、水力発電を導入する。	A
14	市民		深夜営業を必要としないライフスタイルに転換する	A
15	市民		企業版ふるさと納税活用によるPJ(資金集め)を検討する。ライブ配信を行う。	A
16	市民	星空	夜間の星空観察会に参加し、自然の美しさや宇宙の神秘にふれる	A
17	市民	星空	ライトダウンに参加する	A
18	市民		家庭菜園、グリーンカーテン、コンポスト活用 を実施する	A
19	市民		環境配慮マーク商品を意識的に購入する	A
20	市民		山・川・まちのゴミ拾いを行う。アート・楽器づくりに活用する。	A
21	事業者・団体	星空	ライトダウンに参加する	A
22	事業者・団体		食品ロス解消に向けた子供食堂を行う	A
23	事業者・団体		各種ロスを削減するプラットホームを開設する	A
24	事業者・団体	雪	雪を使った冷房設備を作る	A
25	事業者・団体	田	バイオ炭農業(Jクレジット)を実施する	A
26	事業者・団体	田	里芋でバイオマス発電を実施する	A
27	事業者・団体	森林	バイオマス発電の見学を実施する	A
28	事業者・団体	太陽	1カ所に太陽光を設置してみんなで使う(沖縄)	A
29	事業者・団体	太陽	太陽光パネルの設置を義務化する	A
30	事業者・団体		デフォルト〜なんらかの準備期間あり	A
31	事業者・団体	生物	奥越高原牧場の牛のフンと給食の残土でバイオマス発電	A
32	事業者・団体	太陽	耕作放棄地に太陽光発電を設置する(農業者の収入源にも)	A
33	事業者・団体	水	水力発電の事業者が地域の住民とうまくやってる事例を紹介する。(シンポジウムを開催)	A
34	事業者・団体	田	農業事業者が化学肥料・農薬の使用をやめる、減らす	A
35	事業者・団体	水	民間事業者が小水力発電を整備する。電気を地元の事業者に供給する	A
36	事業者・団体	雪	雪(氷)を夏まで保存し、かき氷などのスイーツ・特産品としてブランド化を図る	A
37	事業者・団体	雪	「食品事業者」が屋外貯蔵した「雪」を使って食品保存・冷房に活用する	A
38	事業者・団体	水	事業者が「地下水(地中熱)」を利用した空調を導入する	A
39	事業者・団体		廃材を利用した工作物の体験教室を開催する	A
40	事業者・団体	雪	事業者が雪の反射を活かした「太陽光パネル」を導入する	A
41	事業者・団体	雪	事業者が雪貯産食品を販売する(道の駅)	A
42	事業者・団体	森林	森林を活用したJクレジットを活用する(経済効果により森林保全の促進)	A
43	事業者・団体	雪	「温浴施設」で「雪」を冷房に活用する	A
44	行政		小学校等にコンポストを設置する	A
45	行政	水	九頭竜湖で水力発電の最大化を図る	A
46	行政		大野版CNカルタ・CNポスターコンクールを実施する	A
47	行政	太陽	市役所が夏の猛暑の熱を蓄えて冬の融雪に活用(熱の保有)	A
48	行政	水、太陽	水力・太陽・火力エネ管理を地域で行う(九州)	A
49	行政		地元農産物を利用したレストランを応援する	A
50	行政		家庭から出る生ゴミを肥料に転換する	A
51	行政	雪	冬時期の除雪を利用してのスキー場を開設する	A
52	行政	森林、水	市が森と水の循環を学べる施設(ピオトープ)を整備する(市民も)	A
53	行政	森林、水	学校が森と水の循環について教える(学びの場提供)	A
54	行政		市が市民の脱炭素化の活動にポイントを付与(デジタル地域通貨)	A
55	行政	森林	子供に植林活動、キャンプを体験させる企画を実施する(自然保護の啓発)	A
56	行政	雪	行政が、イベントで「雪」を使って環境教育を実施する	A
57	行政	森林	市が、市有林の保全、植林によりJクレジットを創出する(森林を守る費用を捻出する)	A
58	行政		カーボンフットプリントを見積もりに入札ポイントを付与する	A
59	行政	森林	保育園等の教育機関を巻きこんでの植林と管理を行う(市民)	A

No.	誰が	何の自然を	どうするか	班
60	市民	星空	月一度、自宅から見える星空の風景を写真で撮り、投稿する(SNSなど)	B
61	市民	星空	様々な所で見える星空の違いが分かるようにする。ライトダウン	B
62	市民		市民が、ヒートポンプ式で発熱する家電を使って節電する(エコキュート、冷蔵庫、洗濯機)	B
63	市民	太陽	豪雪地域に対応した太陽光設備を購入する	B
64	市民		常時使用しない家庭内のライトをスイッチ式ではなく人感センサー式に変える(特に玄関先)	B
65	市民		夏休みの宿題で親子で節電チャレンジを行う	B
66	市民	森林	南六呂師か刈込池近くに市民植樹による森を作りカーボンニュートラルのシンボルとする	B
67	市民	水	市民が、気温30℃になった日は、午後2時に必ず打ち水する。(水は必ず井戸水or川水)	B
68	市民	生物	家庭で生ごみを土に埋めて、微生物の力で消滅させる	B
69	市民		TVは電力消費量が多く熱も発生するため、TVを見ない	B
70	市民		スーパーで出来ることは限界があるため、家庭での水洗いリサイクルを実施する(ごみの減量)	B
71	市民		まず、大野の自然をとことん知る。(全体で)	B
72	市民	星空	みんなで(市・事・行)蛍光灯、白熱電球をLED(光色は暖色)に変える	B
73	市民	太陽	非常用電源としても注目されるポータブル電源を太陽光発電のシートとともに家庭に導入し、夏のクーラー用(夜間)として利用する	B
74	事業者・団体	雪	農業者が雪の季節に大根を栽培し売る(雪の下大根は味がいい)	B
75	事業者・団体	森林	市内森林で創出されたJクレジットを市内事業者が購入する	B
76	事業者・団体	田	減反で野菜を作る前に土づくりで牛の堆肥を土にすきこむ	B
77	事業者・団体	水	事業者が発電した電気を公共施設に供給する(小水力発電)	B
78	事業者・団体		電気製品の充電化(深夜電力で充電し、充電冷蔵庫で使用)	B
79	事業者・団体		大手電力会社の水力発電も地域に優先的に利用できる様にして水素を作るなど、脱炭素が必要な企業にきてもらう	B
80	事業者・団体		グリーンカーテンを再実施する(エアコンの節電につながる)	B
81	事業者・団体	田	農家(米作)から大量に出るもみ殻を何かに使う	B
82	事業者・団体	太陽	太陽パネルの応用。農地の日照コントロールなど	B
83	事業者・団体	太陽	みんなで(市民、事業者)太陽光発電を普及させ、自身で使う	B
84	事業者・団体	田	野菜の廃棄物ゼロの取組。(JA・シルバー・道の駅・トラス)農家でそれぞれ出荷	B
85	事業者・団体		事業者の炭素排出量を見る化し各々に削減目標を掲げてもらう	B
86	事業者・団体	森林	大野型ZEB・ZEHを開発する。(大野の木材、水に合った建物)	B
87	事業者・団体	生物	酪農家が牛のゲップ(メタンガス)が出ないエサを食べさせる	B
88	事業者・団体	森林	林業家と市民が連携して、薪ストーブを流行させる	B
89	行政	太陽	太陽光の電力を蓄電して市民のEVに格安で充電	B
90	行政	雪	雪利用のイベントを主催する。(コンテスト、お祭り、学会)	B
91	行政	星空	星空のWEB中継を行う(会費制orふるさと納税)	B
92	行政	田、森林	Jクレジットを事業者(田・森)に働きかける	B
93	行政	森林	自然を守る行動のポイント化。林業支援につながるような商品購入に。	B